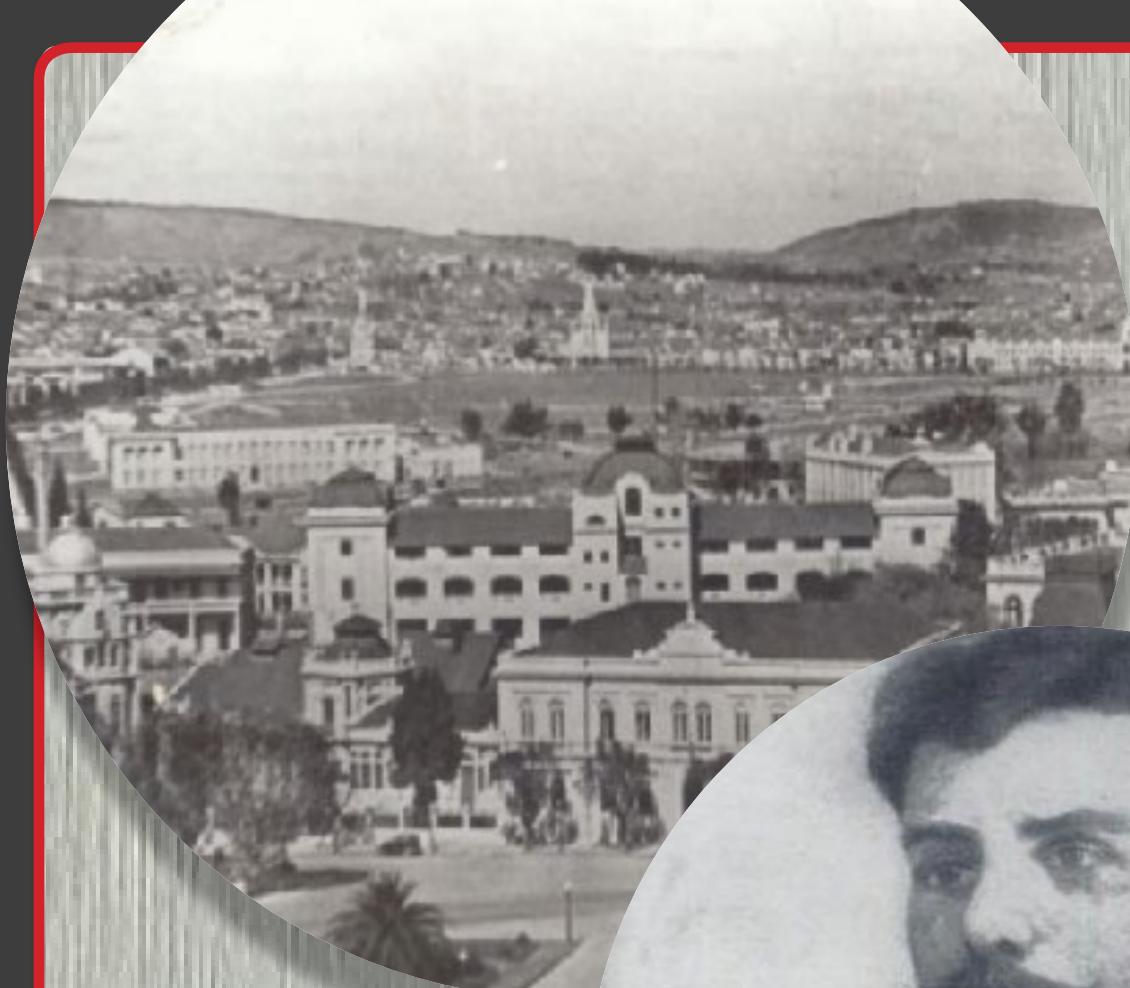




**Information in Japanese about
Internacional, Beira-Rio stadium and
the city of Porto Alegre**



創立

インテルナシオナルスポーツクラブの起源には、ポッピ家の3人のメンバー、エンリケ、ジョゼ、ルイスが関与しています。彼らはサンパウロから1908年頃にポルトアレグレにやって来たと信じられています。

ポルトアレグレに到着すると、彼らは既存のサッカークラブが特定の国籍のグループだけを受け入れる非常に閉鎖的なクラブで、その事が新会員の入会を阻んでいる事に気付きました。

ブラジル人すべてに開かれたサンパウロのクラブチームで既に経験があったポッピ家は、ポルトアレグレの若者を集めて、当時の社会規範を遵守さえすれば、出身に関係なく会員として受け入れるという原則に従って、新しいクラブチームを創る事を決めました。こうして、インテルナシオナルスポーツクラブが創立されました。

クラブ創立日: 1909年4月4日

民主主義の原則

創立前に行われた会議で話し合われた議論は、常にポッピ家とそこにいた人達にとって非常に重要な原則に関するものでした。つまり、ポルトアレグレの他のクラブチームの差別に対する明らかな暗示として、インテルナシオナルはブラジル人と外国人のために創立されたのです。

そして、インテルナシオナルが非常に早くからクラブ入会に民主主義を採用していた事が、学生や商店の従業員がチームの選手の大半を占めていた最大の理由でした。サッカーをする事が多い日曜日を迎えるごとに、敵チームに対抗してインテルの選手を応援する仲間が増えていきました。



チームカラー

インテルナシオナルスポーツクラブが創立された時代、ポルトアレグレ市は2つの大きなカーニバルチームによって二分されていました。緑をチームカラーとしたエスメラルジーニョと、赤と白をチームカラーとしたヴェネジアーノスです。この区別が新クラブのチームカラーの選択において直接的に影響を及ぼしました。接戦投票の末、ヴェネジアーノスが勝利し、チームカラーが決まりました。エスメラルジーニョの多くの人達が同会議を放棄しました。

サシー

ポルトアレグレの他のビッグクラブと比較して大量に黒人選手を受け入れるパイオニア精神が、インテルナシオナルに黒人のチームのイメージを植え付けさせました。しかし、1940年代からサポーターとマスコミはそれを肯定的に受け入れ、インテルナシナルのマスコットとして黒人の少年のイメージが登場しました。時が経つにつれ、ネグリーニョはブラジルの民間伝承の中のキャラクターであるサシーに変わりました。

シンボルマーク

インテルナシオナルスポーツクラブの最初のシンボルマークは、白地を背景に赤でチーム名のイニシャルであるSC Iが刺繍されたものでしたが、縁のない赤のシンボルマークもすぐに登場しました。その後、赤を背景に文字が白の組み合わせの反転したシンボルマークも登場しました。2006年のコパ・リベルタドーレス優勝により、星がもう1つ追加されました。その星の大きさは他の星より50%大きく、3度のブラジル全国選手権優勝（1975、1976、1979年）とコパ・ブラジル優勝（1992年）を意味する4つの星の少し上に位置していました。2006年末、インテルは日本で開催されたFIFAクラブワールドカップに優勝し、コパ・リベルタドーレスのタイトルを意味していた星は場所を変え、国内タイトルの4つの星の間に配置され、そのすぐ上にFIFAクラブワールドカップのダイヤモンドの星が付けられました。2007年、レコパ・スダメリカーナの優勝による3冠の獲得により、冠が紋章の上部に採用されました。現在の紋章は2009年に祝われた100周年記念のもので、周囲が輪で囲まれ、クラブの名称と創立の年が記載されています。





クラブの旗

インテルナシオナルの旗は、チームのオフィシャルカラーである赤と白の2つの直角三角形で構成されており、左側は底辺が白い三角形、右側は底辺が赤い三角形が配置されています。旗の右上隅に、クラブのイニシャルが組み合わされたものと創立年が記載されています。ペイラヒオスタジアムにおいて、サポーター達は高さ55メートルのマストに110平方メートルに及ぶ旗が掲げられているのを見ることができます。

インテルナシナルは黒人達に門戸を開放する

1925年頃、クラブはカネラプレッタリーグのようなポルトアレグレ市のヴァルツェアリーグからの選手を受け入れ始めました。インテルのトップチームでプレーした最初の黒人選手は1928年のジルセウ・アウベス選手でした。1930年代から、チームは大量に黒人選手と契約し始め、サッカーのプロ化という新しい時代が始まりました。

新時代の幕開け

1928年、プロビデンシア保護施設（インテルがプレーしていたエウカリプトスの別荘の家主）が、その価格は高額であったものの、インテルに優先的に土地を売ること決めました。エンジニアのイルド・メネゲッティはメーノ・デウス地区の土地を購入する資金獲得のためのキャンペーンを開始しました。20年間に渡って他人のグラウンドを使用した後、コロラドは遂に自分達の土地を手に入れました。約1万人を収容する木造の観覧席を持つエウカリプトスタジアムが現実のものとして完成しました。1931年3月15日、インテルは荘厳なるホームスタジアムを竣工しました。新しいグラウンドでの最初の試合にライバルチームを招待することほど素晴らしいことはありません。柿落としのグレナル戦において、インテルは3対0で勝利しました。その多大なる貢献に感謝の念を込めて、コロラドは数年後コロラド後援者の称号を贈ってイルド・メネゲッティ会長に敬意を表しました。エウカリプトスタジアムは、1969年のペイラヒオスタジアムの落成までインテルのホームスタジアムとして使用されました。



ローラーコンプレッサー

ローラーコンプレッサーと名付けられた当時のインテルは超攻撃的なチームで、1940年から1945年までの6年間に6つの州タイトルを獲得しました。その絶対的な強さの理由は、まだ他のどのチームも実践していなかった黒人選手をインテルが起用し始めた30年代に遡ります。差別をなくすことで、常に最も優秀な選手が残ったため、チームが強化されたのです。このチームにはインテルナシナルが輩出した偉大なるスター選手のうちの何人もの選手が所属していました。

天才プレイヤーのカルリトスとテゾウリーニャ

無敵の強さを誇ったローラーコンプレッサーと名付けられたチームの中でも、フォワードのカルリトスとテゾウリーニャは大活躍しました。カルリトスはインテルのクラブ史上最も得点を決めた選手でした。グレナル戦だけで40得点をあげました。その長い選手生活の中で1度も他のチームでプレーすることはありませんでした。一方、テゾウリーニャもクラブ史上最もセンセーショナルな選手の1人でした。彼は1940・50年代のブラジル代表でもプレーしました。狭いスペースをドリブルで切り裂く彼のプレースタイルはガセンシャにも匹敵しました。1950年のワールドカップに招集されましたが、怪我をしたために、ワールドカップに出場できませんでした。もしテゾウリーニャがウルグアイとの試合に出場していたら、ブラジルは優勝していたらと多くの人が言います。

ワールドカップはここ！

1940年代終盤はインテルナシナルの発展を強く印象づけました。サポーター達はスタジアムの近代化を熱望し、1947年にエウカリプトススタジアムのコンクリートの観覧席の建設を支援し、1950年まで改修工事は続きました。エウカリプトススタジアム自身の建設時と同じく、以後のベイラヒオスタジアムのこけら落としの時も、サポーター達がクラブの資産価値を高めるために資材を調達したり、資金獲得に奔走しました。スタジアムの観覧席を改修したことで、1950年のワールドカップの2試合（メキシコ対ユーゴスラビアとメキシコ対スイス）をエウカリプトススタジアムで開催できたことは、コロラドにとって大きな誇りです。また、当スタジアムは現在までワールドカップの試合を開催した唯一のガウーショのスタジアムです。





ファンタスティックな 2トップ

フォワードのボジーニョとラリーは、1950年代にインテルで最もファンタスティックな2トップの1つを形成し、「タペリーニャ」として知られる彼らのコンビネーションプレーは崇拜されました。ペルナンブッコ出身のボジーニョは、同じくポルトアレグレのナシオナルというチームでプレーしていましたが、リオデジャネイロのフルミネンセ及び1952年のブラジルオリンピック代表からやって来たラリーにセンターフォワードのポジションを譲りました。2人はリオグランデドスル州がとても気に入ったので、そこから出るなんて事は考えもしませんでした。ラリーは「頭脳派プレーヤー」として知られていました。非常にテクニックがあり、パス回しに優れ、ゴールエリアの外から左右どちらの足でも簡単にシュートに持ち込むことができました。1955年のガウーショ選手権では、ラリーはたった18試合で23ゴールも決めました。彼が得点王になれなかったのは、ボジーニョが25ゴールを決めたからです。ラリーはコロラードのサポーターに対して道義をわきまえていたので、ヘナー戦で2つのPKを外して1958年のガウーショ選手権のタイトル争いから脱落しても、サポーター達に拍手されながらピッチを後にしました。数年後、サッカー選手を引退すると、政界に進出しました。

汎アメリカ大会優勝

ブラジル代表チームはインテルナシナルのチームをベースに構成されたチームで1956年の汎アメリカ大会を戦いました。22名の代表選手のうち、通称テデのフランシスコ・ドゥアルテ・ジュニオール監督のほか、8名がインテルの選手でした。そして、先発メンバーのうち、7名がコロラードでした。決勝戦でアルゼンチンと引き分け、タイトルを獲得しました。ブラジルに帰国した際、選手達はリオデジャネイロでジョアン・ゴウラルト副大統領に出迎えられ、当時のジュセリーノ・クビスチェック大統領に謁見するためにカテッテ宮殿に表敬訪問しました。ブラジルはどんな大会においてもインテルを頼ることができることを発見したのでした。



オフィシャル応援歌の作曲

1950年代末、インテルはコロラド達の気持ちを賞賛するオフィシャルソングの必要性を感じました。コンクールが行われ、多くの人に応募しました。しかし、1人のサポーターが苦悩した午後に作曲されたあの応援歌ほどコロラドの気持ちを歌ったものはありませんでした。そのサポーターとはカリオカのネルソン・シルヴァのことで、ポルトアレグレに住んでいました。1957年、インテルはアイモレに対して劣勢を余儀なくされていました。彼は試合を聞き、陽気に恋人を待っていましたが、彼女は午後の約束をすっかり忘れていました。ネルソンは前の酒場のテーブルに怒った様子で座ると、アーティストの性分からか、インテルを賞賛する応援歌を作詞し始めました。「リオグランデドスル州の庶民のチーム」と最終節を書き終えた時、この曲がサポーター達によって歌われるのではないかという予感がしました。そして、実際にそうなったのです。スター選手の宝庫は、現在インテルナシオナルとコロラドサポーターのオフィシャル応援歌です。



オフィシャル応援歌

国民的スポーツの栄光
ああ、インテルナシオナル
いつも称賛して止まない
遠い場所へ連れて行く
際立つ偉業
いつも光り輝いている
時を刻み、明日が来る
輝き満ちて、勇ましく
連勝街道まっしぐら
栄光のコロラド
ブラジルの誇り

赤と白のチームの過去は
我らが心から祝う理由
現在がすべてを語る
サポーターに喜びと感動をもたらす
スター選手の宝庫のコロラド
スター選手達がいつも青空に輝いている
ブラジル中を熱狂させる
リオグランデドスル州の庶民のためのクラブが



ブラジル国内舞台 での勝利

1967年はインテルナシオナルのブラジル国内のサッカーへの鮮烈なデビューを印象付けました。その時まで、リオデジャネイロ・サンパウロ地域以外のクラブチームの参加は、大会期間の短い大会で、1960年に予選が創設されたコパ・ブラジルでの散発的な参加に限られていました。1967年になってやっと、リオとサンパウロの大会に、ホベルト・ゴメス・ペドロザ、通称ホベルトタオンにより、リオグランデドスル州から2チーム、ミナスジェライス州から2チーム、パラナ州から1チームが出場できることになりました。インテルは同大会で大躍進を遂げ、最初の国内大会で準優勝を飾っただけでなく、古くからのタブーを破って、難攻不落の地と見られていたサンパウロで勝利した最初のガウージョのチームとなりました。

国内での栄光の10年

インテルがリオグランデドスル州及びブラジルでビッククラブであることを示したのは1970年代でした。新しいベイラヒオスタジアムは、恐らくクラブ史上最強チームであったインテルの舞台として、熱狂的なサポーターの期待に応えました。1975年、クルゼイロとのベイラヒオでの感動的な勝利により、コロラードはブラジルチャンピオンとなり、胸に最初の金の星のマークを入れました。同試合の唯一のゴールは、アイドル選手であったエリアス・フィゲオラが決めました。

念願のタイトルを獲得するため、インテルは75年の常勝チームをずっと以前から編成し始めていました。下部カテゴリーから、ファルカン、カルペッジャーニ、クラウジオ、エスクリーニョ、カサパーバが上がって来ました。フルミネンセからは、左サイドバックのルーラが移籍して来ました。ゴールキーパーのマンガはウルグアイのナシオナルから絶対的守護神として移籍して来ました。タイトルを獲得した年には、フォワードのフラビオ・ピクードが、ポルトガルのポルトからインテルに移籍するために、ポルトアレグレにやって来ました。しかし、その常勝チームのスーパースター選手の1人のエリアス・フィゲオラは、1971年末から既にベイラヒオスタジアムにいたのです。

エリアス・フィゲオラは2人の監督（ジノ・サニ監督とフーベンス・ミルネッリ監督）の指揮の下、71年から76年までインテルでプレーし、州選手権とブラジル全国選手権で2度優勝しました。天才プレーヤーのエリアスは多くの人に当時最高のセンターバックと評価され、インテルのサッカーに新しい方向性をもたらしました。サポーターのアイドルは、インテルがただ勝利するだけでなく、国を魅了する戦績でコロラードに初タイトルをもたらした時のキャプテンでした。大会を通じて負けたのは3回だけで、今でも多くの勝利がサポーターの記憶に残っています。準決勝でインテルは満員のマラカナスタジアムでフルミネンセと対戦しました。そして、当時のフルミネンセは通常のフルミネンセとは違い、リベリーノやパウロ・セザー・カジュといったスター選手がチームのメンバーとして在籍していたのです。試合はルーラとカルペッジャーニの得点により2対0でインテルが勝利しました。後は決勝戦を待つだけでした。

ブラジル最強の2チームによる決勝戦を観戦するためにベイラヒオスタジアムは満員になりました。インテルかクルゼイロか、どちらかのチームがチャンピオンとなります。ミナスジェライス州のチームはネリーニョ、ピアッツァ、ゼ・カルロス、パリーニャという強力な戦力を擁していました。みんなが試合の勝敗はちょっとしたプレーの差により決まると予想していました。後半11分、ピアッツァがペナルティエリアの近くで、ヴァルドミロに対してファウルを犯しました。ヴァルドミロ自身がフリーキックのためにボールをセットしました。ヴァルドミロがボールを蹴った時、コロラードのサポーター達はそのプレーが町全体を揺り動かすとは想像すらしていませんでした。忘れもしないフィゲオラがクルゼイロのディフェンダーよりも高くジャンプし、ヘディングでボールの軌道を変えました。ヘディングの瞬間、グアイバ川の方角から差し込む一条の光がピッチ上のセンターバックを照らしました。こうして「光り輝くゴール」がミナスジェライス州のチームに対する勝利を決定付けました。1975年12月14日、インテルは初めて神聖なるブラジルチャンピオンとなったのです！



2度目のブラジル チャンピオン

1976年、インテルは前年の優勝チームのメンバーを維持しました。コロラードのクラブは再びブラジルサッカーの頂点に君臨しました。2度目のタイトル獲得の対戦相手はコリンチャンスでした。ヴァルドミロは前年のフィゲオラのゴールと同じく、試合の決勝点をあげ、試合のMVP選手に選ばれました。同じく1976年には、インテルは他の重要なタイトルも獲得しました。自己記録を塗り替えることに挑み、コロラードは8年連続で州選手権に優勝し、1968年にグレミオが達成した7年連続州選手権優勝という最大のライバルの記録を塗り替えました。

1976年のブラジル全国選手権でのインテルの戦績は特筆に値すべきものでした。フーベンス・ミネリ監督が指揮したチームは、23試合で19勝1分けで、負けたのは3度だけでした。コリンチャンスとの決勝戦は、ベイラヒオスタジアムでの1試合のみで行われました。

前半29分、ダダが高くジャンプして、ヘディングシュートで先制点を決めて、1対0としました。後半12分、ヴァルドミロがフリーキックを蹴ると、ボールはゴールポストに当たって、ゴールラインを超えました。ジョゼ・ホルベルト・ライト主審は、ルイス・カルロス・フェリックス線審の判定に従って、ゴールを有効と認めて2対0としました。ベイラヒオスタジアムが真っ赤に燃え上がりました。2つ目の星は、ガウーショサッカーの円熟ぶりを表していました！



無敗での3度目の ブラジルチャンピオ

1979年、インテルが3位となった州選手権での低成績を取り返すために、多くの選手が入れ替えられました。ただ、インテルが獲得に興味を持ったすべての選手がクラブが支払える金額の2倍もしたため、チーム編成は困難を極めました。憤慨したサポーターは今後どうなるかは想像すらできませんでした。しかし、インテルは信じられない復活を遂げ、1試合も負けることなく3度目のブラジルチャンピオンに再び返り咲くという、ブラジルのどのクラブも成し遂げた事のない偉業をやったのけました。

多くの選手達が他州や外国から移籍して来ました。その選手の中には、ベウテス、クラウジオ・ミネイロ、ピラ、マリオ・セルジオがいました。しかし、サポーターが新チームの真の実力を目の当たりにするのはブラジル全国選手権でだけで、近くから見ても同じ年に州選手権を戦ったチームをとっても思い出せなかったでしょう。エニオ・アンドラージ監督が指揮したインテルは、23試合を戦って、1度も負けませんでした。コロラード達は、無敗でのブラジルチャンピオンという国内クラブ初の快挙となるタイトル獲得を祝うことができました。ブラジルサッカー界で、今日までどのチームにも成し遂げられていない偉業です。

コロラードの試合におけるパフォーマンスは信じ難いものでした。敵チームの選手達は、赤色のチームに敗北することをまるで知っているかのようにグラウンドに入場しました。ライバルのグレミオも屈服し、ジャイルが蹴ったフリーキックのゴールにより1対0で負けました。しかし、他の多くのチームもベイラヒオのチームの前に敗れ去ったのでした。テレ・サンタナ監督率いる勇敢なパルメイラスも、ファルカンの闘志溢れるプレーにより、満員のモルンビスタジアムで行われた試合にも関わらず、3対2で敗れ去りました。ホームのポルトアレグレでの試合では、1対1で次の試合への進出を決め、決勝でヴァスコダガマを迎えました。



ジュアン

・ガンペール杯優勝

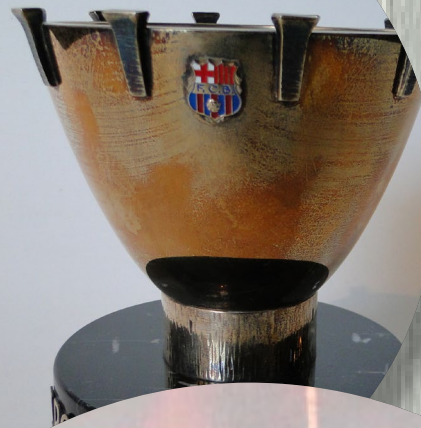
1982年8月25日、インテルナショナルはスペインのバルセロナで開催された有名なジュアン・ガンペール杯で優勝しました。この偉業はブラジルだけでなく南米のどのクラブチームによっても成し遂げられていませんでした。コロラードのチームは、マラドーナがいた強豪バルセロナをPK戦で倒し、決勝でイギリスのマンチェスターシティに2対1で勝利しました。これはクラブ史上最大の偉業の1つでした。金の賞杯はコロラードの国際的シンボルとなりました。

セレ・インテルがオリンピックの銀メダルを獲得

ブラジル代表に招集された22人の選手のうち8人がインテルナショナルの選手だった1956年以後、1984年がインテルにとって栄光に満ちた年でした。アメリカ合衆国のロサンゼルスオリンピックに出場するブラジル代表チームとして、単純にインテルのチームが丸ごと招集されました。ゴールキーパーから背番号11番の選手まで、11人の選手すべてが同大会で活躍し、銀メダルを獲得しました。

セレ・インテルと命名されたチームは、多くの試合において観客数の記録を更新しました。例えば、スタンプフォードで行われたイタリアとの試合では、8万3千人以上の人々がスペクタクルな試合を観戦しました。しかし、最も印象的だったのはフランスとの試合でした。この試合の観客数は10万1799人で、アメリカ合衆国のローズボウルスタジアムの最高記録を塗り替えたほか、現在までのオリンピックの最高観客数でもあります。

イタリアとドイツというサッカー強豪国の代表チームに勝利をあげたほか、ブラジルはサウジアラビア、モロッコ、カナダにも勝利しました。最終的に、インテルの選手達はブラジルにサッカー競技においてオリンピック初の銀メダルをもたらしました。また、ゴールキーパーのタファレル、サイドバックのルイス・カルロス・ウイック、ディフェンダーのアロイジオといったコロラードの選手がブラジル代表チームでソウルオリンピックを戦った88年にも、この偉業は成し遂げられました。



世紀のグレナル戦

1989年2月12日午後は、クラブ及びガウショサッカーの歴史において永遠にその時が刻まれました。この日、インテルはバイラヒオで永遠のライバルであるグレミオに対して1勝をあげました。グラウンドには選手が10人しかいない状態で、コロラードのチームは0対1とリードを許したまま前半を終了しました。

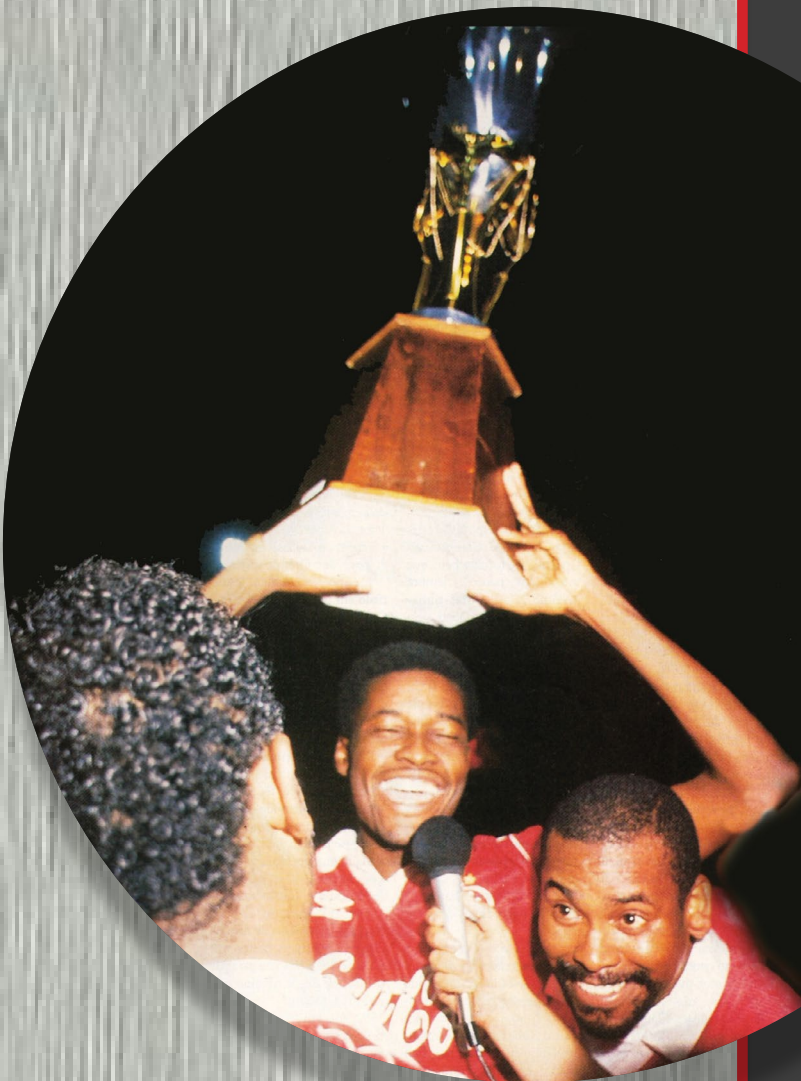
「世紀のグレナル戦」と命名されたダービー戦は、ブラジル全国選手権の決勝への出場権とコパ・リベルタドーレスの出場権がかかっていました。試合終盤に、コロラードはバイラヒオに詰め掛けた数多くのサポーターの応援に後押しされてグレミオに攻勢をかけ、センターフォワードのニルソンの2ゴールで2対1と逆転しました。ポルトアレグレ、リオグランデドスル州、いや世界中がお祭り騒ぎと化しました！



苦闘の末の92年ブラジル杯のタイトル獲得

インテルが4つめの国内タイトルを獲得したのは1992年のことで、同タイトルはクラブにさらに偉大さを与えました。決勝では、アントニオ・ロペス監督のチームはフルミネンセと対戦しました。カリオカ達は第1試合を小さいラランジェイラススタジアムで行い、リオグランデス州の庶民のクラブを畏縮させようと試みました。インテルは試合に勝ちましたが、2対1という僅差でした。しかし、アウェイでの試合でインテルは背番号11の19歳のカイコが鮮烈なデビューを飾り、見事なゴールを決めました。

アウェイでのこのゴールは、バイラヒオスタジアムで1ゴールのみで勝利できるというアドバンテージをインテルに与えました。それは本当に重要でした。12月13日、バイラヒオスタジアムは決勝戦を観戦しに来た観客で満員になりました。5万人以上のコロラド達が観覧席で押し合いへし合い熱狂しつつも、チームの勝利を信じていました。タイトルを決めるゴールはなかなか決まりませんでした。希望を失わずに、チームはその努力が報いられるよう、最後の瞬間まで必死に戦いました。後半41分、ピंगाが敵チームのペナルティエリア内に進入して倒されました。パウリスタのジョゼ・アパレシード・デ・オリベイラ主審によりペナルティキックの判定が下されました。ディフェンダーのセリオ・シルヴァはペナルティキックのためにボールをセットし、一旦距離を取ってからシュートしました。ゴールキーパーのジェフアソンが守るゴールの真ん中に地面を這うような強烈なシュート。サポーターたちはスタジアムの観覧席で安堵と喜びが混ざり合った感情を爆発させつつ得点を祝いました。苦闘の末に、インテルナシオナルは再びブラジルのチャンピオンとなったのでした。



新千年紀

インテルはそのサッカーの本質を下部カテゴリーに求めて、新千年紀に突入しました。ガウショサッカーにおける覇権は、4年連続州選手権優勝（2002年から2005年）により自然とやって来ました。その時から、コロラドのクラブはすべての部門で近代化に努め、サッカー新時代に向けて準備を進めています。数年に渡る法的紛争を経て、バイラヒオ総合施設内の全敷地がポルトアレグレ市役所により完全に法的整備が行われ、インテルナシオナルスポーツクラブが土地を登記する事が可能になりました。そのことはインテルナシオナルがスタジアムの近代化プロジェクトの進展をもたらすとともに、新しい収入源が獲得できることで、インテルを常にブラジル有数のクラブチームの中に入れることにつながります。



アメリカ制覇

2006年は100年のクラブの歴史の中でも最も栄光ある年でした。インテルの2つのビッグタイトルは同じ年に達成しました。すべてはコパ・リベルタドーレスのタイトル獲得から始まりました。インテルは大陸制覇を成し遂げるために、全勢力を結集させました。まず、ベテランのアベル・ブラガ監督を招聘し、以下に挙げるチーム内の中心選手の保持に賭けました。その選手達とはゴールキーパーのクレメル、ディフェンダーのインジオとボリヴァー、サイドバックのセアラ、ミッドフィルダーのジョルジ・ワグナー、エジーニョ、アレックス、フォワードのラファエル・ソビスなどで、これら全選手をクラブの歴史上でも最も重要な選手の1人であるフェルナンダオンが統率しました。さらに、補強選手として、ファビアーノ・エレル、ファビニョ、ウエルントン・モンテイロが加入しました。しかし、リベルタドーレスのタイトル獲得の際、フェルナンダオンほど重要な役割を果たした選手はいませんでした。彼は5ゴールを決めて大会の得点王となり、他の7ゴールのアシストも決めました。

プーマス（メキシコ）、マラカイボ（ヴェネズエラ）、ナシオナル（ウルグアイ）といった敵チームと対戦したリベルタドーレスの予選リーグにおいて、インテルは全チームの中で2番目にいい成績で予選を終了しました。ベスト16の試合で、予選リーグで同組だったウルグアイのナシオナルと対戦し、モンテビデオでは2対1の逆転勝利、ベイラヒオでは得点無しを引き分けという結果により、ナシオナルを倒しました。アウェイの試合で、コロンビア人のレンテリアは、マークに付いた選手の頭上を越えるボールをフワッと上げ、落ちてきたボールを角度のない所に左足でシュートするという2006年度で最も華麗なゴールを決めたのです。

キトでのLDUとの準々決勝で、インテルは大会で唯一の負けを喫しました。アウェイの試合で、エクアドルのチームは2対1で勝利しました。しかし、ホームでの試合では、ワールドカップ開催期間中の中断期間の後、インテルはソビスとレンテリアのゴールにより2対0で勝利しました。準決勝の対戦相手はパラグアイのリベルタッドでした。デフェンソーレス・デル・シャッコスタジアムでの得点無しを引き分け、ベイラヒオでのアレックスとフェルナンダオンのゴールによる2対0での勝利により、インテルは決勝進出を決めました。

決勝戦の対戦相手は最後の南米とFIFAクラブワールドカップのチャンピオンであったサンパウロでした。インテルは、コパ・リベルタドーレスにおいて他のブラジルのクラブチームに1度も負けたことがないチームに勝利するという、当時最大の挑戦の1つにチャレンジするためにモルビスタジアムへと向かいました。7万1千人のサポーターの前で、インテルは完璧な試合運びを展開し、2対1で勝利しました。ラファエル・ソビスが2ゴールを決めました。

ベイラヒオスタジアムでの1試合だけが残されていました。8月16日のあの寒い夜、引き分けで十分でした。フェルナンダオンが先制点を挙げました。しかし、インテルが1点を失ったものの、後半に再び得点を決めてリードを奪うと、試合は異様な雰囲気漂わせ始めました。ゴールを祝う際に、チンガがユニフォームを脱いだとして退場処分を受けました。サンパウロは攻勢をかけてきて、同点ゴールを決めて2対2となりました。しかし、ゴールキーパーのクレメルのファインセーブと他の選手達の必死のプレーにより、アメリカ大陸をインテルのチームカラーである真っ赤に染める結果を維持することができました。





世界チャンピオン

遙か彼方の日本、もっと正確には2002年のワールドカップの決勝の舞台であった横浜が、インテルナシオナルがクラブ史上最高の栄光を収める場所でした。コロラドのチームは、ヨーロッパチャンピオンのバルセロナを1対0で下しました。あの12月17日という日、コロラドのチームは素晴らしい試合を繰り広げました。試合前、すべての人がスペインのチームの優位性を指摘していました。しかし、試合が始まった時にグラウンドで見られたのは、勝利のためにはいかなる犠牲も辞さない姿勢で、集中力を持ってプレーしているインテルの選手の姿でした。前半、ロナウジーニョ、デコ、イニエスタ、プヨル、マルケス、シャビといったスター選手を擁するバルセロナの攻撃を抑えることができました。

試合終盤、試合はドラマチックな展開になってきました。まず、チームの主将であるフェルナンダオンが、筋肉痛のために突然ピッチを後にしなければならなくなりました。続いて、ディフェンダーのインジオが突然の激突プレーで、鼻の骨を折ってしまいました。それでも、インテルは勇敢に戦い、イアルレイを起点としたカウンター攻撃により、最後にアドリアーノ・ガブリウがクラブ史に名を残すゴールをあげ、試合を決めました。こうして、インテルは世界の頂点に登りつめたのでした。



インテルテレビ

クラブはユーチューブ上にwww.tvinter.tvからアクセスできる公式チャンネル (youtube/assessoriainter) を持っています。インテルテレビはチームの内部情報やインテルの歴史のほかに、ベイラヒオスタジアムの近代化工事の映像やチームの日常の様子を紹介した番組をウェブを通じて無料で放送しています。

ソーシャルネットワーク

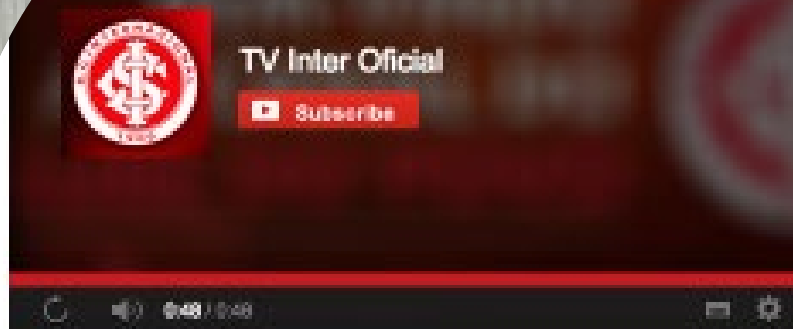
インテルはソーシャルネットワークを通じたサポーターとの双方向の対話を積極的に推進しています。フェイスブック (facebook.com/scinternacional.oficial)、インスタグラム (@scinternacionaloficial)、ユーチューブ (youtube.com/assessoriainter) だけでなく、ツイッター (twitter/scinternacional) においても、クラブはコロラードのネットユーザー向けにコンテンツを配信しています。

ツイッター公式アカウント

@SCInternacional
@TVInter
@RadioInter
@Intermob
@MuseudoInter

レジャー施設とサービス

ベイラヒオスタジアムはブラジル南部で最大のスタジアムです。インテルナショナルの試合は、愛するチームの試合を観戦するために、常に多くのサポーターがスタジアムに足を運んでくれます。しかし、パドレ・カシッキ大通りとグアイバ川の間にあるスポーツ用グラウンドを囲む地域も、クラブの会員とサポーターに様々なレジャーの選択肢と学際的な活動を提供しています。



Videos recentes



インテル博物館

インテルナショナルスポーツクラブ博物館、通称ルイ・テデスコはベイラヒオスタジアム内のインテルショップの横にあるモダンなスペースです。1200㎡の展示会場で、コロラードは1909年から今日に至るまでのインテルの栄光の軌跡を記録した数百の歴史的資料を閲覧することができます。南米のサッカークラブチームで最も近代的な博物館の1つには、トロフィー・議事録・ペナント・写真・ビデオ・インタビュー記事が展示されています。

最も興味深い部門の1つが木製の観覧席を再現したもので、訪問者はそこに座って、画像と映像から成るビデオをスクリーン上で鑑賞することができます。観覧席の近くに、マンガとフィゲオラの銅像が浮いています。ピセンチ・ラオやボジーニョといったクラブ史に残る選手の所持品が展示されている部門は、すべての訪問者の興味を惹きます。コロラードは自分の目の前にあるオリジナルの所持品を通じて、歴史を築いた選手たちの偉大さを少し感じることができます。同博物館の詳細な情報は、www.internacional.com.br/museudointer または twitter.com/museudointer で知ることができます。

コロラード見学

インテルナショナルの栄光の舞台に興味を持たれた方には、特別なサービスをご用意してあります。コロラード見学はベイラヒオスタジアムを見て回るツアーで、専門のガイドさんがクラブに関する情報をツアー中に随時説明してくれます。同ツアーで見学する場所は、スイートルーム、特等席、ビジター用更衣室へと抜けるトンネル、メイングラウンド、博物館などです。



イベントセンター

特筆すべき他の部門はプレジデント・アルトゥール・ダレグラベと名付けられたイベントセンターです。同センターはベイラヒオ複合施設内の活用されていない場所を利用する必要性から生まれました。そこでは、会議・晩餐会・結婚式・誕生日パーティー・宴会など、ありとあらゆる規模のイベントを実施できます。建物と外の造園との間には4千㎡の空間が広がっています。座席は800名、立席は1千名までが利用できます。9台の巨大テレビと14台のエアコンが戦略的な場所に配置されています。同事業の約30%が海外のインテル代表事務所とクラブ会員からの寄付金により実現できた事を強調する必要があるでしょう。2014年のワールドカップ期間中、この場所はプレスセンターとしても利用できます。

ガウーシャ伝統文化部 スカーフコロラード

ガウーシャ伝統文化部スカーフコロラードはインテルナシナルの伝統文化を重視する部門であり、コロラードのサポーターと会員がクラブで利用できるもう1つの文化スペースです。ガウーシャ伝統文化部の活動範囲は非常に広く、投げ縄を使ったロデオ、キャンプ、ガウーシャ文化と関連したダンスや各種行事など、田舎における行事も含んでいます。ガウーショの伝統文化の普及とインテルの海外での広報活動のほかに、ガウーシャ伝統文化部はファンダンゴのような様々なコースを提供するなど、会員やファンを魅了しようと活動を行っています。さらに詳しい情報はサイト www.dtglencolorado.com.br、メール paulorbelarmino@hotmail.com、ツイッター twitter.com/lenco_colorado を通じてお問い合わせください。

礼拝堂

サポーターはノッサ・セニョーラ・ダス・ビトリアス礼拝堂で自分の信仰とチームへの崇高なる忠誠を誓うことができます。100名の信者を収容できるコロラード礼拝堂はベイラヒオ大通りに面したベイラヒオ複合施設の入りの近くに位置しています。



ジガンチーニョ体育館と 社会・文化プロジェクト

スタジアムの隣にジガンチーニョ体育館があります。フットサルの大会や国内・海外アーティストのコンサート会場として既に使用された同体育館内に、インテルナシオナルスポーツクラブ教育文化財団（FECI）があります。同財団は社会プロジェクトのインテルアジュール、図書館、インテルのアマチュアスポーツ部門とオリンピック競技部門を統括しています。また、同体育館にはインテルラジオとインテルテレビの本部も置かれています。

インテルアジュールは市民権の発展を奨励する社会教育事業を展開しています。同プログラムは社会的排除の問題に直面している子供と若者を受け入れるほか、大人向けの職業訓練プログラムや高齢者と身体障害者に関する事業も行っています。

他に注目すべき施設は図書館です。図書館では多様な文学作品が閲覧できます。文学愛好者はあらゆるジャンルの著書に出会うことができます。

図書館

インテルナシオナルスポーツクラブ教育文化財団の目玉は、1929年に創設された図書館です。現在、図書館には一般人が閲覧できる著書が8万冊以上あり、毎年5万3千冊以上の著書が参照されています。コロラードの歴史について知識を深めるには最高の場所だと言えます。



コロラード達の神殿、ベイラヒオスタジアムが誕生

ガウーショサッカーにおけるインテルの長期覇権が終わりかけていた1956年、巨大スタジアムのベイラヒオスタジアム建設の歴史が始まりました。サッカーを愛し、何度もインテルを統括したエフライン・ピニェイロ・カブラルが、グアイバ川内の埋め立て予定地の寄付に関するプロジェクトをポルトアレグレの市議会に提出しました。つまり、インテルは水中にある土地をもらったのです。そして、1959年ようやく、ベイラヒオスタジアム建設の最初の杭が打ち込まれました。

スタジアムは煉瓦・セメント・鉄筋などを持ってきたサポーター達の寄付によりその大部分が建設されました。州内のすべてのコロラードサポーターを動員するための特別なラジオ番組もありました。後にコロラードのスター選手となるファルカンも、スタジアム建設のために煉瓦を運んだことが知られています。インテルの創立から60年と2日後の1969年4月6日の日曜日、ベイラヒオスタジアムが遂に竣工しました。ポルトガルのベンフィカとの柿落としの試合で、クラウジオミロが新スタジアムにおけるインテルの第1号ゴールを決めました。試合は2対1でインテルが勝利しました。

最高入場観客数：106,554人（州選抜チームとブラジル代表チームの試合：3対3-1972年6月17日開催）

すべてのタイトルを獲得したチャンピオンクラブ

コロラードのチームは、獲得が可能で且つ望まれている全てのタイトルを獲得したブラジルで唯一のクラブチームです。ガウーショ選手権（41回、最多優勝回数）、ブラジル杯、ブラジル全国選手権（3回）、コパ・リベルタドーレス（2回）、FIFAクラブワールドカップ、レコパ・スタメリカーナ（2回）、コパ・スタメリカーナで優勝しています。その他にも、素晴らしい記録を保持しています。1979年、ブラジル全国選手権を無敗で優勝した唯一のブラジルのクラブチームです。また、1969年から1976年までガウーショ選手権の連続タイトル獲得数の記録（8回）も持っています。さらに、ホームタウンでは、最大のライバルのグレミオとの直接対決において勝利数で大きく上回っています。1945年に直接対決で優位に立って以来、1度もライバルに乗り越えられたことはありません。60年以上もその優位性を維持しているのです。クレバーが得点を決めました。



2度目のレコパ・スタメリカーナ優勝

リベルタドーレス優勝により、インテルは2007年度のレコパ・スタメリカーナへの出場権を獲得しました。アウェイで戦った第1試合は、メキシコのパチューカに1対2で敗れました。ホームのベイラヒオスタジアムでは、インテルは自分たちのサッカーをして、4対0で圧勝しました。決勝戦のゴールは、アレックス、ピングア、アレシャンドレ・パトとモスクエラ（自殺点）があげました。リベルタドーレス、クラブワールドカップ、レコパのタイトルを次々と獲得したことで、チームは3冠を達成しました。

2011年、前年のリベルタドーレス優勝チームとして、インテルは2010年のコパ・スタメリカーナで優勝したアルゼンチンのインディペンディエンテと対戦しました。メキシコのチームとの試合の時と同様に、コロラードはアベジャネーダで行われた第1試合を1対2で敗れ、不利な状況に追い込まれました。しかし、ベイラヒオスタジアムではコロラードサポーターの応援を味方につけて3対1で勝利し、2度目のレコパ・スタメリカーナ優勝を果たしました。同試合ではレアンドロ・ダミアン（2ゴール）とクレバーが得点を決めました。6年間で8つ目の国際タイトルでした。



広報部

インテルナショナルスポーツクラブ広報部は、紙媒体の冊子、デジタル冊子、新聞、インテルテレビ、インテルラジオ、インテルモバイル（携帯電話向けサービス）、オフィシャルサイトなど、会員やサポーター達に最新ニュースを届けるためにクラブが利用する通信手段や出版物に関わる仕事を行っています。

インテルの雑誌

入会して2ヶ月目から会員に与えられる特典であるインテルの雑誌には、ニュース、試合・選手・過去のスター選手に関する特集記事、サポーター専用欄などが掲載されています。同雑誌は2つのバージョンがあります。1つは紙媒体の雑誌で、会員の自宅に郵送されます。もう1つはデジタル雑誌で、何回かクリックするだけで閲覧できます。会員はwww.internacional.com.br/sociosのサイト上でそのどちらかを選択します。

revista do Inter

2013
Edição 86

A REVISTA OFICIAL DO SPORT CLUB INTERNACIONAL - ESPECIAL PARA SÓCIOS
WWW.INTERNAZIONALEM.BR



インテル新聞

インテル新聞はペイラヒオスタジアムで行われるインテルの主要な試合向けに製作されています。スタジアムに足を運んだサポーターに無料で同新聞を配布しています。最近ではホームで行われる試合の2日前からポルトアレグレ市内の数カ所と近隣の町でも配っており、当日の試合情報などが掲載されています。

オフィシャルサイト

サイトwww.internacional.com.brはインテル公認のオフィシャルサイトです。クラブの国際化を重視するために、ポルトガル語以外の数カ国語にも対応しています。インテルナショナルの全てが網羅されており、毎日平均して6万のアクセスがあります。インテルにはそのオフィシャルサイト上に会員専用エリア（www.internacional.com.br/socios）が設けられています。同エリアでは、会員は各種情報・ニュース・プロモーション・問い合わせ・イベント・各種手続き等、クラブが会員に提供しているすべての情報を知ることができます。



グアイバ川のほとりにあるレジャー施設での健康のための運動

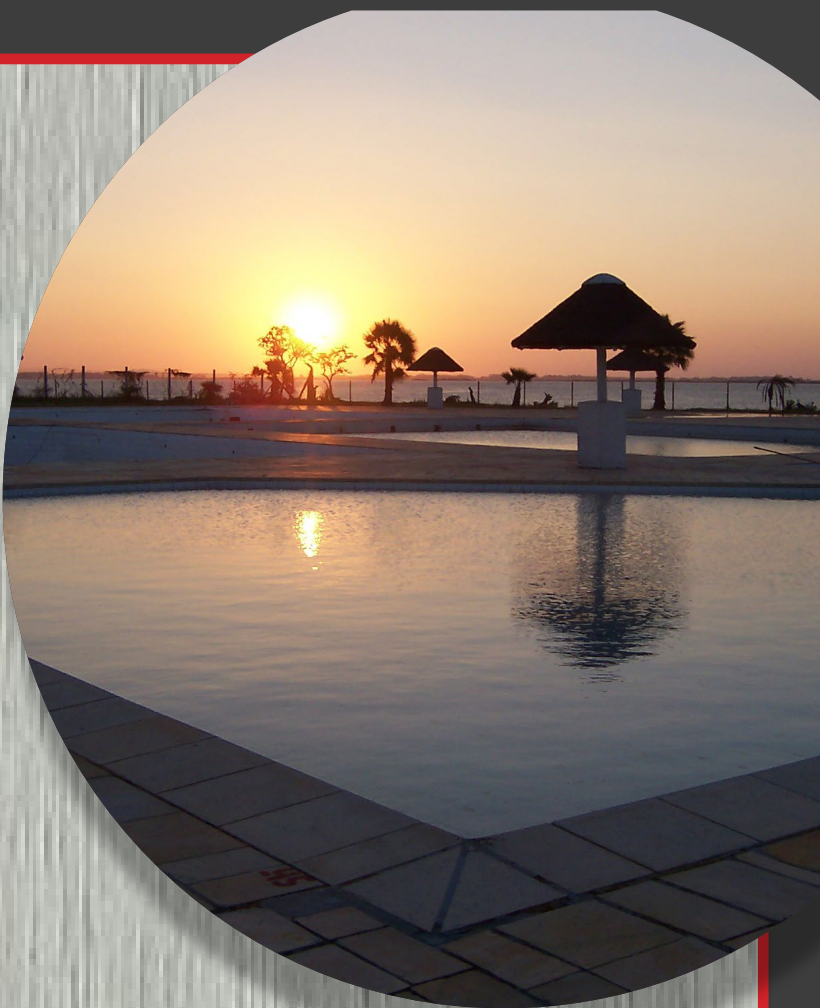
ペイラヒオ複合施設の主要なレジャー施設の1つがジガンチーニョ公園です。グアイバ川のほとりに位置する同公園において、会員達は緑豊かなエリアと多くのレジャー施設が利用できます。屋外プールと温水プールは主要なレジャー施設です。サポーターは同プールで水泳とアクアビクスの授業が受けられます。さらに、コロラードはテニスコート、7人制フットサルコート、売店、宴会場なども利用する事ができます。同公園内の他の選択肢としては、ボディービルのトレーニングが行われるインテルフィットネスクラブがあります。

コロラードキッズ

子供達をインテルの熱烈なサポーターにすることは、既に12年前からコロラードキッズプロジェクトの目標でした。この期間中、ペイラヒオスタジアムで行われた試合で、5万人以上の子供達がインテルの選手と一緒にグラウンドに入場し、インテルナショナル愛を賞賛しました。同プロジェクトはリオグランデスル州内の小学校に通う11歳までの子供達向けに行われています。ペイラヒオスタジアムのピッチの芝を踏むほか、子供達はインテルショップを訪れ、練習用グラウンドでレクリエーション活動に参加します。さらに、すべての子供達がハーフタイムに軽食とクラブ旗をもらいます。

コロラードサポーター

インテルナショナルは他の多くの点と同じく、組織的な応援団に関しても先駆者です。伝説のローラーコンプレッサーと呼ばれたチームが活躍した1940年代に、ブラジルで最初の応援団が創設されてニュースとなりました。時が経つにつれ、コロラードはクラブに対する愛の表現の方法を広げ、常にチームを応援する姿勢がサポーター内で普及し、結果的にコロラードの会員数が増えていきました。現在、ビッグゲームにおいては、スタジアムはクラブ会員で満員になります。実際のところ、熱烈なサポーターは強豪チームを応援することに慣れてしまいました。



差別化サービスを楽しむ インテルの会員と サポーター

インテルナショナルスポーツクラブは常に愛情と敬意を持って会員に接してきました。その関係をさらに緊密なものにするために、年間を通じて様々な行事を行っています。特権的なコンテンツと情報で会員に特典を与えたり、会員を大事にすることはクラブの使命です。

例えば、インテルはオフィシャルサイト上で会員のみが利用できる専用エリアを設置しています。登録名と暗証番号を入力すれば、会員は自分の個人情報に掲載されているエリアにアクセスできます。同エリアでは会員向けコールセンターへの登録情報の確認、未払いの月謝の支払い、支払い済みの月謝の明細書の閲覧といったサービスが利用できます。

クラブとの双方向の対話も主な魅力の1つで、コロラード・インテルナショナルと命名されたサイト www.internacional.com.br/socios にサポーター達の写真を送信でき、世界のあらゆる場所からインテルへの愛を発信できます。また、同じくコロラジーニョも、コロラードの子供達の画像をアップロードするために同じウェブサイト上に創設されました。



会員との距離を縮める戦略

アメリカ大陸第1位、世界第6位のクラブ会員数を維持するのは容易なことではありません。従って、インテルナショナルは10万人以上の会員達にサッカーの枠を越えた特典を提供するよう心がけています。会員向けサービス向上委員会は差別化したサービスを会員に提供できるよう検討を行っている機関です。クラブの様々な部署の社員及び部長から構成されており、現会員が新規会員となるサポーターを1人勧誘しなければならないという1+1プロジェクトを考案したのもこの機関です。新規会員を紹介した会員は映画やコンサートのチケット、インテルのオフィシャルグッズといった特別な賞品を抽選でもらえます。また、入会するよう勧誘されたサポーターも同時に行われる抽選に応募することになります。

ベイラヒオスタジアムでの試合の時と同様に、コロラドの会員にはビッグイベントにおけるチケット購入の優先権があります。例えば、ビートルズの元メンバーのポール・マッカートニーのコンサートでは、会員は最初の数時間で第1回目の前売りチケットをすべて買ってしまいました。一方、一般市民は2日後の第2回目の前売りチケット販売でようやくチケットを購入することができました。さらに、母の日・父の日・恋人の日といった特別な日には、インテルラジオ番組への出演の抽選会、他州とリオグランデスル州の田舎に住む会員がブラジル国外のスタジアムで行われるインテルの試合を観戦するためのチケットの抽選会などが行われます。また、試合のハーフタイムに、他の協賛企業との時と同様に、インテル博物館と協力してコロラド見学のような共同事業が行われます。



技術スタッフ

インテルナショナルはサッカー界におけるスター選手の育成能力に関して世界でも注目を浴びて来ています。優秀な技術スタッフを擁するクラブは、将来有望な若手選手の発掘と育成に莫大な資金を投入しています。下部カテゴリーの技術スタッフ部門はまさにその目的のために存在し、若い才能ある選手の発掘と評価における成功例として認められて来ています。同部門は10歳から17歳までの青少年を育成することを主な目的としており、潜在能力を持った選手の発掘に努めています。そのために、クラブは組織的な体制と発掘・育成を行う技術スタッフを整えています。

深紅のアカデミー

サッカー好きの7歳から15歳までのコロラードが地球上で最も人気のあるスポーツを練習するのに適した場所があります。深紅のアカデミーです。63年前にピセンチ・ラオによって創設されたアカデミーは、「サッカーを教えることを通じて、市民を育成する」という標語からも分かるように、非常に明確な目的を持っています。

深紅のアカデミーには現在1245名の生徒が在籍しています。アルボラダ市にある新しいトレーニングセンターのグラウンドで、体育学部卒のプロのサッカーコーチが生徒達を69クラスに分けて指導しています。生徒達は練習だけでなく、栄養学と理学療法に関する指導も受けています。深紅のアカデミーを卒業して後にプロ選手として活躍している選手として、トップチームのゴールキーパーのレナン選手がいます。彼は同アカデミーのサッカーの授業に9歳から参加しており、下部カテゴリーに昇格するまで在籍しました。

すべての少年達がクラブ内の選手権に出場したり、市内の大会に参加することができます。さらに、深紅のアカデミーは多くの若者がインテルの下部カテゴリーに入るための第1歩となり、プロのサッカー選手となって、すべてのチャンピオンであるインテルのユニフォームを着るという夢に近づくのです。アカデミーは社会貢献にも積極的に取り組んでいます。パンリスル銀行とポルトアレグレ市役所と提携し、アカデミーは280名の子供達を無料で受け入れています。



ゲノムコロラード

インテルナショナルスポーツクラブで最も大胆なプロジェクトの1つであるゲノムコロラードは、2012年に恩恵を受けた若者の数が何と8万人の大台を突破しました。同事業を通じて、ブラジル国内の7歳から16歳までの子供達が良識ある市民・コロラードとなりました。大台を達成しましたが、インテルはゲノムプロジェクトをさらに積極的に推し進めています。2010年から現在まで、2万4千人の少年少女がブラジル国内及び世界中にあるインテル代表事務所登録しました。すべての登録者は学校に通って、いい成績を収める義務があります。インテルへの愛を理由に、スポーツを通じて良識ある市民を育成するのが目的だからです。

ゲノムと関連するすべてのインテル代表事務所は大会を主催し、多くの少年達が大会で活躍しています。町や地方の大会から全国大会まであります。ゲノムの国内タイトルを争うためにブラジル全土の優勝チームが集まるブラジル杯はその一例です。何人かの若者はベイヤヒオスタジアムで入団テストを受けるチャンスを与えられました。さらに、ゲノムコロラードはインテルの会員の募集に関する活動も行っています。



アルボラーダ市の トレーニングセンター

ポルトアレグレ大都市圏内のアルボラーダ市にあるインテルナシオナルトレーニングセンターは、2012年5月に正式に竣工しました。同センターは下部カテゴリーと深紅のアカデミーの選手達のホームとなる施設です。2年間賃貸される同センターには、コロラードのスター選手を育成するのに必要なすべてのインフラ設備があります。

宿泊施設にはトイレ・エアコン・テレビ付きの4人部屋が20室あります。また、トレーニングセンターには、プロサッカー用のグラウンド4面、更衣室8室、現代的なスポーツジム、温水プール、医療室があります。トップチームが人工芝での試合向けに練習で使用する人工芝の公式グラウンドがもうすぐ整備される予定です。

ペイラヒオ総合施設外でも、下部カテゴリーの選手達は、栄養士・医師・ソーシャルワーカー・理学療法士に彼らの練習やその他の活動をサポートしてもらえます。さらに、トレーニングセンターには食堂、講演用の講堂のほか、グループでリラックスしたい時のためのレクリエーションルームも当然備えています。ただ、同トレーニングセンターはクラブが将来に向けて計画している全カテゴリーのプロサッカー選手にとって完璧なトレーニングセンターを所有するための第一歩を示しているに過ぎません。

トレーニングセンター のインフラ設備

- ・ 公式サッカーグラウンド4面
- ・ 人工芝の公式サッカーグラウンド1面
- ・ 深紅のアカデミーの生徒用のグラウンド2面
- ・ 更衣室8室
- ・ スポーツジム
- ・ 温水プール
- ・ 医療室
- ・ 理学療法室
- ・ 栄養指導室
- ・ 社会サービス室
- ・ ベッド4台・トイレ・エアコン・テレビ付きの部屋20室
- ・ 食堂
- ・ 講堂
- ・ レクリエーションルーム



トレーニングセンターの インフラ設備

公式サッカーグラウンド

選手達はFIFA公認サイズのサッカーグラウンド2面を大会に向けた練習のために利用できます。2つのグラウンドの違いは使用されている芝の種類です。1つはホソムギ（冬の芝）が追加されており、もう1つは追加されていません。芝の質の高さはペイラヒオ大通りを通る人から注目されるだけでなく、選手達からも称賛されています。





ボディービルジム

トレーニングセンターのジムにある最新トレーニング器具で筋肉の強化に励んでいる間、選手達はグアイバ川の美しい景観を楽しむことができます。

理学療法室

選手達が怪我をした際、ここで理学療法を行います。選手達の治療のために必要なすべての器材が完備されています。

医療室

選手達の診察はこの部屋で行われます。各選手のカルテもこの部屋に保管されています。

臨床検査室

選手達のすべての検査及び生化学・運動機能に関する診断はここで行われます。

食堂

トレーニング終了後、選手達は練習で消耗したエネルギーを回復するためにここで軽食を取ります。食事は既存の業務用キッチンで作られます。栄養バランスが取れたメニューは、トレーニングセンター内に栄養室を持つクラブ専属の栄養士が特別に作成したものです。

更衣室

バイラヒオスタジアムの更衣室と似た構造となっており、選手はシャワーとトイレのほか個人専用ロッカーを利用することができます。



医療室

選手達の診察はこの部屋で行われます。各選手のカルテもこの部屋に保管されています。

温水プール

ジガンチーニョ公園のトレーニングセンターの近くに、選手達が時々利用する温水プールがあります。

砂場

グラウンドの1つの近くに設置されている砂場は、選手が怪我の回復を目指すリハビリの過程で利用します。選手達はここで筋肉強化を目的とした練習をするからです。

プレスルーム

練習が終わるごとに、選手達がマスコミに対してインタビューに応じるのがこの場所です。プレスルームは更衣室へと繋がっています。



技術スタッフ室

アシスタントコーチのほか、監督・フィジカルトレーナー・ゴールキーパーコーチが利用する部屋です。

社会サービス室

トレーニングセンターの社会サービス室を利用すれば、選手達は自分や家族が必要としている事に関して全面的にサポートを受けることができます。



スター選手輩出工場 - スター選手の宝庫

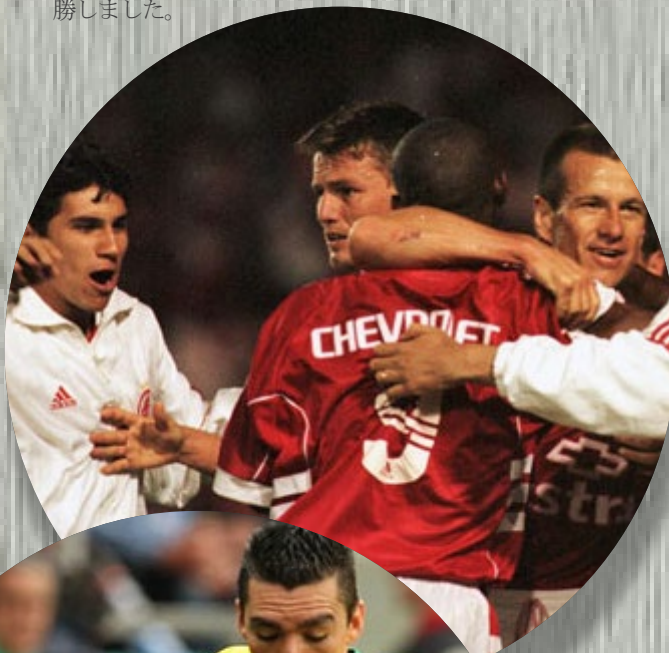
インテルナシオナルで才能を見出され、世界のサッカーの舞台で活躍したスター選手は枚挙に暇がありません。でも、それは驚くには値しません。下部カテゴリーのチーム専門サイト0lheiros.netの国内ランキングによれば、獲得したタイトルと育成した才能豊かな若手選手という観点から、インテルナシオナルはブラジルで最高の下部カテゴリーチームを有しています。スター選手の宝庫と称されるコロラードのスター選手の何名かをご紹介します。

ファルカン

永遠のアイドルファルカンは1970年代のチームの戦術上欠かせないスター選手でした。ブラジル全国選手権で3度優勝し、ガウーショ選手権は5年連続で優勝を果たしました。また、コロラードが海外クラブに高額の移籍金で売った最初の選手でした。1980年、ファルカンはイタリアのローマに移籍し、イタリアでもチームをリーグ優勝に導き、「ローマの王様」と称されました。

タファレル

常に自信に満ちあふれ、大胆なプレースタイルが持ち味のタファレルは、1970年代を代表するマンガ選手のようなセンセーショナルなゴールキーパーに慣れていたサポーターのアイドルになりました。タファレルはブラジル代表チームでも活躍し、ワールドカップに3回連続で出場を果たし、1994年のアメリカ合衆国でのW杯では優勝しました。



ドウンガ

男らしいガウーショサッカーの代表的な選手であるドウンガは、1983年にインテルでデビューし、1994年に3度目の世界チャンピオンとなった際、ブラジル代表チームの主将として世界のサッカーの舞台で脚光を浴びました。

ルシオ

味方陣内で相手攻撃陣からボールを奪う能力の高さから、ルシオはディフェンダーとしての実力を高く評価されました。1997年から2000年までのインテルでの活躍が認められ、ヨーロッパのチームへ移籍しました。ブラジル代表チームでは、2002年のワールドカップで優勝したほか、FIFAコンフェデレーションズカップでも2度タイトルを獲得しました。



ニウマール

スピードもテクニックもあるニウマールは、将来への期待の逸材として2002年にインテルでデビューしました。ヨーロッパのチーム及びコリンチャンスと渡り歩いた後、インテルがコパ・スダメリカーナに優勝した2008年に再びチームに戻ってきました。翌年、インテルはスペインのビジャレールへの同選手の移籍が合意に達しました。ニウマールはブラジル代表にもコンスタントに招集され、コンフェデレーションズカップで優勝しました。

アレシャンドレ・パト

インテルが輩出したスター選手の1人であるフォワードのアレシャンドレ・パトは、17歳だった2006年にプロ選手としてのキャリアを歩み始めました。FIFAクラブワールドカップに帯同し、チームの優勝に貢献しました。翌年、イタリアのミランに移籍する前に、レコパ・スダメリカーナのタイトルを獲得しました。彼は現在のブラジル代表チームのメンバーに選ばれているインテルの下部カテゴリー出身のもう1人の才能ある選手です。



サンドロ

背が高く、強靱でテクニックもあるボランチのサンドロは2008年にトップチームで頭角を現し、コパ・スダメリカーナで優勝すると、2009年のシーズンでは先発メンバーの地位を勝ち取りました。しかし、実際に同選手が活躍したのはチームが翌年に2度目のリベルタドーレス優勝への過程においてでした。ブラジル代表に招集されたことで、他のクラブチームからオファーがたくさん来るようになり、2010年半ば、イギリスのトッテナムへ移籍しました。

レアンドロ・ダミアン

フォワードのレアンドロ・ダミアンは2009年にインテルに入団しましたが、彼がトップチームで活躍し始めたのは翌年になってからでした。ポジショニングのよさとシュートの精度の高さから、インテルの2軍チームのエースとなり、2010年のガウーショ選手権の試合に出場し始めると、2度目のリベルタドーレス優勝を達成したチームで先発のポジションを獲得しました。ダミアンは3対2で勝利したチーバスとの決勝戦で1ゴールを決めました。2011年、ダミアンはガウーショ選手権とレコパ・スダメリカーナでのタイトル獲得においてチームに欠かせない選手となりました。年間41ゴールをあげて（インテルで40ゴール、ブラジル代表で1ゴール）シーズンを終え、2011年度のブラジルサッカーで最多得点を決めて、フリーデンライヒ賞を受賞しました。それ以降、赤色のインテルのユニフォームを着て多くの得点を決め続けており、ブラジル代表のフォワードの1人としても活躍しています。



すべてのチャンピオンが獲得したタイトル

- | | | | |
|----------------|---------------------------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1912年 | インデペンデンシア杯 | 1983年 | スペインのマラガで行われたコスタドソル大会優勝 |
| 1913年 | ポルトアレグレ市メトロポリタン選手権優勝
(最初のタイトル) | 1983年 | カナダのコスタドパシフィコ大会優勝 |
| 1913年から1964年まで | ポルトアレグレ市内の大会で優勝
(1913年から1964年までの期間中に24度優勝し、1972年に優勝) | 1984年 | 4年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1927年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 1984年 | ブラジル代表としてロサンゼルスオリンピックで銀メダル獲得 |
| 1934年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 1984年 | 日本の東京で行われたキリン杯で優勝 |
| 1940年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 1984年 | エレノ・ヌネス大会優勝 |
| 1941年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1987年 | スコットランドのグラスゴーでの第1回国際大会優勝 |
| 1942年 | 3年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1987年 | 州知事杯優勝 (4チームが出場したカンポグランジの大会) |
| 1943年 | 4年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1987年 | スペインのビーゴで行われた大会優勝 |
| 1944年 | 5年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1989年 | スペインのセルタでの大会優勝 |
| 1945年 | 6年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1991年 | ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1947年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 1991年 | リオグランデドスル州カップ優勝 |
| 1948年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1992年 | 和光電気カップ優勝 (日本) |
| 1950年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 1992年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1951年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1992年 | ブラジル杯優勝 |
| 1952年 | 3年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1994年 | ベイラヒオ大会優勝 |
| 1953年 | 4年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 1994年 | ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1953年 | レジス・パシェッコ大会優勝 (バイーア州) | 1996年 | メルコスル大会優勝 |
| 1955年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 1997年 | ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1956年 | ブラジル代表として汎米大会優勝 | 2001年 | チリのビーニャ・デル・マル大会で2度目の優勝 |
| 1961年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 2002年 | スーパーガウーシヨ選手権優勝 |
| 1969年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 2003年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1970年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2004年 | 3年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1971年 | 3年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2005年 | 4年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1972年 | 4年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2006年 | コパ・リベルタドーレス優勝 |
| 1973年 | 5年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2006年 | FIFAクラブワールドカップ優勝 |
| 1974年 | 6年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2007年 | レコパ・スタメリカーナ優勝 |
| 1975年 | 7年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2008年 | ドバイカップ優勝 |
| 1975年 | ブラジル全国選手権優勝 | 2008年 | ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1976年 | 8年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2008年 | コパ・スタメリカーナ優勝 |
| 1976年 | 2度目のブラジル全国選手権優勝 | 2009年 | 無敗で2年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1978年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 2009年 | スルガ銀行チャンピオンシップ優勝 |
| 1978年 | チリのビーニャ・デル・マル大会で優勝 | 2010年 | 2度目のコパ・リベルタドーレス優勝 |
| 1979年 | 無敗で3度目のブラジル全国選手権優勝 | 2011年 | ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1981年 | ガウーシヨ選手権優勝 | 2011年 | 2度目のレコパ・スタメリカーナ優勝 |
| 1982年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 | 2012年 | 2年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1982年 | スペインのバルセロナで行われたジュアン・ガンペール杯優勝 | 2013年 | 3年連続ガウーシヨ選手権優勝 |
| 1983年 | 3年連続ガウーシヨ選手権優勝 | | |



近代化

インテルナシオナルとアンドラージ・ギチエレス建設会社との提携が締結されてから、ペイラヒオスタジアムの改修工事が急ピッチで進んでいます。同事業はペイラヒオスタジアムをクラブの偉大なる財産であるコロラードのサポーターと会員にとって、より快適で安全なスタジアムに改修しようというものです。

クラブは近年のサッカースタジアムの国際標準の要求事項に対応した持続可能なスポーツ複合施設に改修することで、いかなる国内・国際試合も開催できるように準備を進めています。庶民のためのクラブのホームスタジアムで、2014年のワールドカップでは5試合を開催する予定です。世界で最も近代的で美しいスポーツ複合施設の1つを所有する事になるため、ブラジル全土及びすべてのコロラードにとって自慢の理由であり続けます。

2012年3月19日にインテルとアンドラージ・ギチエレス建設会社の間で締結された契約は、「ジガンチを永遠に」プロジェクトの内容を基本に、FIFAが定めた技術規格を遵守してスタジアムを改修する予定です。まず、VIPエリアも含め、一般客用の観覧席と各種設備を近代化することで、現在のスタジアムの構造自体は維持する事とします。具体的には、スタジアムと駐車場専用ビルのために膜構造の屋根を設置するほか、電気・水道システムの交換、スタジアム内の情報システムの補完、(排水システムの変更を伴う)芝の張り替えといった作業を行います。基本となる建築デザインはハイブ・スタジオリ建築会社によって設計されました。

予算額3億3千万レアルの同プロジェクトは、特定目的事業体(SPE)から資金供与を受ける予定です。クラブは費用償却のために資金の一部(2600万レアル)を工面しました。特定目的事業体は、2014年のワールドカップ関連の事業における民間セクターを支援するプロコバプログラムを通じ、工事費用の75%までブラジル国立経済社会開発銀行(BNDES)から融資を受け、その差額の補填には自己資金を投入する予定です。

その代償として、インテルはペイラヒオスタジアムの以下のエリアとサービスを20年間に渡って運営して収益を得る権利を建設会社に提供します。

- 特等席121席とスカイボックス
- VIP5000席
- 約6000㎡の賃貸用の商業スペース
- 駐車場専用ビルの駐車スペース3000台分
- スタジアム内の広告スペースの販売
- コンサート及びイベントの運営

インテルはチケット売り場と現在の駐車場の4千台分に関する権利を保有し続けます。



ベイラヒオスタジアムが今後 どう生まれ変わるのかをご覧ください。

観客収容人数:ワールドカップの試合時のベイラヒオスタジアムの観客収容人数は51300人になります。ワールドカップ終了後、他のヨーロッパのいくつかのスタジアムでも行われているように、ゴール裏の座席を撤去する等の措置を取ることで、クラブは5万6千人まで収容人数を増やすことができます。但し、クラブは常に観客の安全と快適さを最大限に考慮した上で、観客収容人数をどうするかを決める予定です。

駐車場:既存の駐車場のほかに、サポーターはクラブのサブグラウンドだったベイラヒオ大通りに隣接する新しい駐車場専用ビルを利用することができます。駐車場専用ビルは約3000台の駐車が可能です。また、現在の駐車場は、環境に配慮した新しい床（コンクリートと芝のブロック）により全面的に改修されます。

観覧席:サポーターはゆったりと座れるようになります。サポーターが座る観覧席の階段のステップの奥行きは60cmを超え、場所によっては90cmを超えているため、足を伸ばせるほか、人が座席の前を通る余裕があります。また、座席が格納式で開閉が可能な事も、人の往来をさらに容易にしています。リング状の共用スペース:スタジアム内にリング状の共用スペースがあり、人の往来にも役に立ちます。観客はスタジアム内のどこにいても、試合の前後にこの共用スペースで待ち合わせて、一緒に飲食したり、談笑したりできます。

屋根:ベイラヒオスタジアムは膜構造の新しい現代的な屋根を設置する予定で、入場ゲートへのアクセスとスロープも含め、スタジアム内の全座席を覆うこととなります。

リング状の共用スペース:スタジアム内にリング状の共用スペースがあり、人の往来にも役に立ちます。観客はスタジアム内のどこにいても、試合の前後にこの共用スペースで待ち合わせて、一緒に飲食したり、談笑したりできます。



スタジアムの下の階へのアクセス:スタジアム1階のサポーターは、近代的なロジックにより設置されたより多くのゲートへのアクセスが可能になります。現在、サポーターは観覧席の1階部分の高さの所からペイラヒオスタジアムに入場します。工事完成後、サポーターは観覧席の中央まで小さな階段をのぼったら、上の階にも下の階にも左右どちら側にも進めるようになります。こうすることで既に座席に座っている人の前における人の往来を緩和できます。

スタジアムの上の階へのアクセス:上の階へのアクセスはスロープだけではなくります。新しい16のタワーには階段のほか、エレベーターが設置されます。

VIPエリアへのアクセス:駐車場専用ビルに車を駐車したサポーターは、屋根付きスロープを歩いてVIPエリアまで行くことができます。

迅速な観客の退場:近代的なロジックの下に多くのゲートを設置したことで、満員のペイラヒオスタジアムから全観客をたった8分で完全に退場させる事ができます。

レストラン:グアイバ川に面して総床面積1千㎡以上のレストランが何店舗か開店する予定です。

ショップ:小売店主がサポーターに商品を販売できるように、44の商業モジュールが設置されます。

快適なスタジアム:スタジアム全体が屋根で完全に覆われたり、格納式の座席が設置され、全エリアで同じスペースが取れたりする事により、スタジアム全体が非常に快適な空間になります。従って、スタジアムの中で「より日差しが強い」とか「足元により余裕がある」といった場所がなくなります。

VIP用座席:提携企業はソーシャルエリアにあるVIP用座席5千席を利用可能にする予定です。

スイートルームと特等席:特等席は33席から70席に増えます。さらに、永久会員用座席を覆う現在の屋根のスラブの下に、55席スカイボックスが設置される予定です。

トイレ:一般観客向けトイレの使用可能人数は4倍に増えます。



コロラドマーケティング

ネット上のインテルナショナルスポーツクラブのショッピング。これがサイトwww.lojadointer.com.brのインテルのショップの新しい仕組みのベストの定義です。最初はオフィシャルグッズの販売用のeコマースの単なるチャンネルに過ぎませんでした。今ではありとあらゆる商品のネット販売を行っています。

エルメスグループ社のコンプラファッシルとの提携の下、同サイトではインテルナショナルブランドの商品が2千点以上も販売されています。しかし、通常は大型ブティックとデパート内のショップだけで販売されている、32カテゴリーのその他の5万点に上る商品も購入することができます。その場合、商品によって異なるロイヤリティーがクラブに支払われます。

クラブが展開するすべての事業で既に常識な事ですが、コロラドの会員はサイトを通じて商品を購入する際に特典があります。会員は12月31日まですべての商品を10%割引で購入することができます。

リニューアルしたインテルのネットショップには、コロラドサポーターにだけでなく一般消費者にとっても、国内最大規模のeコマースになるべく、家電・家具・装飾品・香水・カメラ・ゲーム・家庭用品はもちろん、自動車用品から幼児用品まで、ありとあらゆる商品があります。



コンプラファッシルとの提携

急成長するネット販売業界でサービスの質を維持したければ、eコマースのショップは販売方法を完璧にしなければなりません。その意味で、インテルナショナルはネットショップの潜在能力を引き出す有力な提携先を見つけました。コンプラファッシルは、ブラジル全土における家庭への直接配送と物流オペレーションに関して、エルメスグループでの経験があり、そのノウハウを活用できる利点があります。エルメスグループは1942年に創業され、さまざまな商品のカタログ販売の分野における国内トップ企業です。

インテルショップ

インテルとナイキのショップ（インテルショップ）は、バイラヒオスタジアム内にあるクラブの博物館の横にあります。同ショップではさまざまなインテルナショナル公認グッズが販売されており、数あるグッズの中から、ユニフォーム・帽子・旗といった商品を購入したい会員に割引キャンペーンを実施しています。さらに詳しい情報は、電話番号51-3230-4503に問い合わせるか、サイトwww.lojadointer.com.brをご覧ください。



国際化

記事

新たな市場を求めて

サッカーは単なるスポーツではなく、グローバルビジネスとなりました。私たちはその点をよく理解しています。私たちはクラブチームとして世界タイトルを獲得し、その偉業は世界中に知れ渡りました。ここ数年において、ブラジルはもちろん南米を見渡してみても、インテルほど国際舞台で結果を残したチームはほかにありません。

コパ・スタメリカーナとレコパ・スタメリカーナでの戦いとタイトル獲得。リベルタドーレスでの2度の優勝。ドバイカップ優勝と日本でのスルガ銀行チャンピオンシップ優勝。1980年代のジュアン・ガンペール杯優勝を筆頭に、その他の国際大会での活躍について言及したらきりがありません。インテルが世界のサッカー界で最も脚光を浴びたのは、2006年に日本で行われたバルセロナとの決勝戦に勝利し、FIFAクラブワールドカップで優勝した時でした。

クラブチームとしての活躍の舞台は、長年リオグランデドスル州の枠を超えられませんでした。私達は世界での存在感をさらに強めたいと考えています。今やサッカーは数十億人を巻き込むグローバルビジネスです。アジア・中東・東ヨーロッパ・オセアニア・北アメリカといったサッカーの伝統があまりない市場でもチャンスがあります。英国・スペイン・イタリア・ドイツといったサッカーが盛んな国々では、ビッグクラブがさらに強豪チームへと変貌を遂げています。クラブ収入の差が、結果として、設備・サポート体制・技術スタッフ・選手の差に反映され、その他のチームとの実力差がさらに広がっています。ビジネスとしてサッカーの潜在的な成長の規模を考慮すれば、一時的に経営危機に見舞われても、ビッグクラブはさらに強くなっていくことが予想できます。

ビッグクラブであり続けるためには、ピッチの中でも外でもベストを尽くす必要があります。強豪チームはピッチの外で結果を残すものですが、スタッフがピッチの外でしっかりした営業成績を残せば、チームがよい結果を残すための資金を獲得する事ができます。従って、私達が既に実行してきた仕事を粘り強く続ける必要があります。しかし、私達もクラブとして成長しなければなりません。だから、新規市場を開拓したり、クラブのブランドにグローバル価値を付加したり、新しいスター選手を育成したり、クラブの全活動においてより効率性を追求し続けなければなりません。しかも、それらすべてを強豪チームとしての地位を維持しながら実施する必要があります。

私達コロラドは、ブラジル・南米サッカーにおける中心的なチームであり続けたいし、世界の主要なクラブチームの1つとして活躍する事を希望しています。従って、インテルは大企業をモデルに新規市場の開拓のために組織的に仕事に取り組み、クラブの国際化のために大きな歩みを行っています。2011年のミュンヘンでのアウディカップに出場したほか、スポーツコーチの交流、効率的な練習に関する意見交換、マーケティング、スポンサー、運営に関わる活動の展開において、アトレティコ・マドリード（スペイン）、シカゴ・ファイアー（アメリカ合衆国）とアメリカ（メキシコ）と戦略的提携を締結しました。これはトッテナム（英国）と既に行っていた提携と同じものです。さらに、上海申花足球倶楽部（中国）、ムアントン・ユナイテッド（タイ）、アル・アイン（アラブ首長国連邦）、ラジャ・カサブランカ（モロッコ）、ベシクタシュ（トルコ）が同じ内容を基本とした提携に加わりました。これはサッカークラブチームによる最初の世界規模の業務提携です。

当クラブの提携クラブと一緒に活動している企業や新規スポンサーへのコンタクトが容易になるだけでなく、私達のブランドと商品を販売する新規市場を開拓するビッグチャンスでもあります。さらにグラウンドにおいてコーチ陣は、準備運動・スポーツ医学・練習方法・試合戦術といった様々な分野における交流・研修・診療を通じて、私達が仕事をする上での方法論を改善できます。この提携は革新的な可能性を秘めており、インテルナショナルの世界における現在のステータスを示しています。連勝街道を歩み続けられるように、明日が希望の光で満たされるよう期待しています。「世界に向けたチーム」作りを目指すグローバル提携は、その目的の達成のための大切な1歩なのです。

マキシミリアーノ・カルロマグノ

インテルナショナルスポーツクラブ顧問

サイト<http://www.internacional.com.br>のクラブ部門の国際提携にアクセスしてください。

インテル代表事務所

ホームタウン以外の町にあるクラブの機関がコロラードの発展に決定的な役割を果たしています。インテルを代表する責任を担うインテル代表事務所が、ブラジル国内だけでなく世界の5大陸に約500あります。各代表事務所とその所長は社会事業を奨励したり、サポーターや新規会員を募集したりして、コロラードである事の誇りを世界に向けて発信しています。

インテル代表事務所は、ドイツ、アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、チリ、中国、韓国、コスタリカ、スペイン、アメリカ合衆国、フランス、英国、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、レバノン、メキシコ、モザンビーク、ニュージーランド、パナマ、パラグアイ、ポルトガル、ロシア、スウェーデン、スイス、ウルグアイにあります。コロラードの各代表事務所は、インテルナショナルスポーツクラブを普及したり、社会事業を奨励したり、新規会員を募集してクラブの収益を増やすなど、コロラード愛のためのネットワークを築く責任があります。

インテル代表事務所は所長と副所長から構成されており、同事務所の構成員が100名集まるごとに、代表者を1名指名する事ができます。スタッフ体制が整ったら、彼らは同事務所がある町や地域とインテルナショナルとの直接の橋渡し役として、インテルの試合の観戦ツアーの手配や会員からの資金集めキャンペーンなど、クラブとサポーターの距離を縮める活動を推進します。

インテル代表事務所のもう1つの事業が慈善活動です。ここ数年リオグランデドスル州のサンロウレンソドスル市、リオデジャネイロ、サンタカタリーナ州の町で起きた洪水の被災者など、常に自然災害で被害を受けた遠隔地の人々を支援する活動に関わっています。代表事務所のスタッフを動員することで、毎年何トンもの衣服・食料・おもちゃ等を寄付してもらい、被災者に愛のある支援物資を届ける事ができています。すべてのチャンピオンというチームの知名度と団結・ボランティア精神が一緒になって初めて実現できる活動なのです。

インテルは広報部の役員、指導者、元選手、現役選手から構成されるコロラードの一行と一緒に、パーティーの最大の目玉となるコロラードが獲得した主要なトロフィーを持って、ブラジル全土で開催されるイベントを訪問することで、訪問先の各代表事務所に威信を与えています。代表事務所の設立方法、具体的な活動内容、活動への参加方法に関する情報は、インテルナショナルスポーツクラブの公式サイト(www.internacional.com.br/consulados)に掲載されています。



文化大使

各町にいる所長のほかに、2008年から、インテルナショナルはさらにクラブをアピールすることを目的として文化大使プロジェクトを開始しました。有名なアーティストやプロの方を文化大使に任命し、インテルは彼らが訪問する先でクラブの広告塔として宣伝してもらうことで、コロラドの会員数の拡大を目指します。事前に目標が設定され、クラブは2009年に既に10万人の大会を超え、アメリカ大陸で最大の会員数を誇るクラブとなりました。コロラドの有名人の中で、現在文化大使に任命されているのは、歌手のリタ・リー、バンジテレビの司会者のレナタ・ファン、グローボテレビの司会者のパトリシア・ポエタ、ビッグ・ブラザー・ブラジル10というテレビ番組の優勝者のマルセロ・ドウラード、2011年に世界のツイッターにおいて最も影響力がある人物としてニューヨーク・タイムズ紙に選ばれたジャーナリストのラフィーニャ・バストスなどです。

リオグランデドスル州

リオグランデドスル州はブラジル最南端に位置する州です。1050万人以上の住民がおり、アルゼンチンとウルグアイの2カ国と国境を接しています。隣国との距離的近さがガウーシヨのサッカーを、非常に気合いと力に頼った両国のプレースタイルと類似した性格を持つサッカーにしています。

ガウーシヨの起源はポルトガル人及びスペイン人と原住民との混血です。そのアイデンティティーは、ブラジル政府の移民奨励策により同州にやって来て、ここに定住したドイツ人(1824年)とイタリア人(1875年)のほかに、少数のユダヤ人、さらには1780年に始まった乾燥牛肉の工業生産のための奴隷労働者として同州に入ってきたアフリカ人により形成されました。

リオグランデドスル州は、ガウーシヨ山脈にあるグラマードとカネラのような様々な観光都市があるブラジル国内で最も美しい州の1つです。

一般情報

面積：281,748.538平方キロメートル

人口：10,582,840人(2007年)

州都：ポルトアレグレ

市町村の数：496(2008年)

主要都市(人口と経済的観点)：ポルトアレグレ、カノアス、カシアス・ド・スル、サンタマリア、ペロッタス、パソフンド、リオグランデ、ウルグアイアーナ。

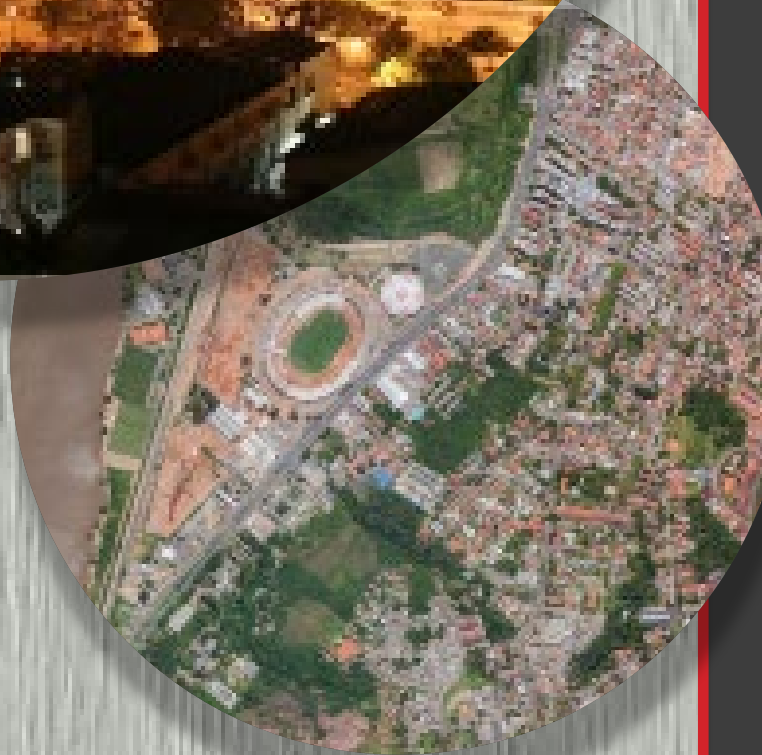
大陸：アメリカ大陸

国名：ブラジル

地域：南部(国内で最南端の州)

世界標準時間帯：-3 GMT(ロンドンのグリニッジ標準時からマイナス3時間)





ポルトアレグレ

ブラジル国内で生活水準が高い町の1つであるガウーショの州都は、アソーレス諸島出身のポルトガル人夫婦によって、フレグエジア・デ・サン・フランシスコ・ド・ポルト・ドス・カザイスとして、1772年3月26日に創立されました。1821年、皇帝ドン・ペドロ2世から町の地位を授与されました。20世紀に町が拡大する中、ポルトアレグレはリオグランデドスル州の他の町の中でも大きく発展し、ブラジル国内における影響力を強めていきました。

町はリオグランデドスル州の東部に位置し、多様な民族、宗教、言語から構成されています。

国内・国際レベルで大規模なイベントを主催できるポルトアレグレは、ダイアナ・ドス・サントス（体操）とジョアン・デルリ（柔道）のほかに、タファレルやアレシャンドレ・パトといったサッカー選手を世界へ輩出したリオグランデドスル州の州都でもあります。

観光客の玄関であるポルトアレグレは、高水準のインフラ設備を有するサービスの中心地であり、国内及び海外の大企業の本社が多数あるほか、ブラジルで国際的イベントが開催される町の1つです。

一般情報

公式創立日：1772年3月26日

所在地：南緯30度/西経51度

ブラジル最南端の州都

標高：10メートル

面積：496,684平方キロメートル

人口：1,409,351人



インテルナシオナルスポーツクラブ理事会

会長：ジオバンニ・ルイジ
第1副会長：マルセロ・フェイジョ・デ・メデイロス
第2副会長：ダイアナ・ラケル・デ・オリベイラ
幹事長：ジェルソン・タデウ・オリベイラ・ピレス
特別サービス部副会長：アレシャンドレ・ムッソイ・モレイラ
経営部副会長：ジョゼ・アルフレッド・サントス・アマランテ
広報部副会長：ノベルト・ジャッケス・ギマラエス
マーケティング部副会長：アダウリ・レジス・ゴンサルベス・ダ・シルベイラ
ジガンチ公園部副会長：マウリ・ルイス・ダ・シルバ
会長補佐：エドワルド・ロゼンベルグ・ラッチェル、エミド・オドシオ・ペロンジ、
ジョゼ・アルベルト・シルベイラ、ジョゼ・バルビエロ、ケラー・ドルネレス・クロス、
ジョゼ・クラウジオ・リマ、ルイス・カルロス・アビラ・デ・カルバーリョ・レイテ、ルイス・カ
ルロス・ボト・パダアラッス、ルイス・ロベルト・アルブケルケ、マリノ・クアドス・ダ・ローザ
サッカー部の部長：ルイス・セザー・ソウト・デ・モウラ、マルセロ・デ・メデイロス
サポーター部の部長：ルイス・フェルナンド・マルチンス
広報部の部長：ルイス・カルロス・フレイタス
情報技術部の部長：ラウロ・ストラザボスコ・ドルネレス
人事部の部長：ルシアノ・ラモス
下部カテゴリーの部長：ロベルト・メロ、オレステス・ポルトラン
サッカー部のアシスタント：エドワルド・ハウセン・デ・ソウザ、ロベルト・メロ
ゲノムコロラード部の部長：パウロ・ルーベンス・バツ・シーリグ
オンブズマン：ギンサー・スポージ

諮問機関役員

会長：イブセン・ヴァルス・ピニエイロ
副会長：ジェラルド・コスタ・ダ・カミノ
第1書記：ロドリゴ・リベイロ・シランジェロ
第2書記：ジョゼ・リカルド・スペルティ・ブラジル

監査役会

役員：エドワルド・クニジュニック
ジョルジ・ルイス・B・ヴィエイラ・ダ・クーニャ
ルイス・フェルナンド・アロイシオ
マルセロ・ドゥカチ・フェヘイラ
パウロ・ロジェリオ・マルチネス・ヌネス

代理:

フェリッペ・リベイロ・ゴンサルベス
アルトゥール・カレツィ
ジエゴ・フェッヒ・チャムン

インテルナシオナルスポーツクラブ教育文化財団 (F E C I)

理事長：ルシオ・イグナシオ・レグネル
副理事長：セザルド・ジュリオ・ビダノッチ
財務部長：ノベルト・ジャッケス・ギマラエス
幹事長：リカルド・デットメル

クラブ推薦による部長：ギレルメ・ダラ・ローザ・オゾリオ

F E C I 経営諮問機関会長：ジョアン・ペドロ・ラマナ・パイバ

この冊子はクラブの広報部が作ったインテルナシオナルスポーツクラブの刊行物です。

ご質問・ご意見・ご要望等ございましたら、

電話(51)-3230-4600またはメールaimpresa@internacional.com.br

を通じて、お問い合わせください。

発行：アレシャンドレ・コヘア

グラフィックデザインの編集：ロジェリオ・スチニエスキ

本文：アレシャンドレ・コヘア、アドリアーナ・モンテス、フェリッペ・シルベイラ、ジリアー
ノ・ソアレス、ナタリア・マウロ

写真：アレシャンドレ・ロプス マーケティング部：(51) 3230 4503

印刷：グラフィックコミュニケーション印刷

翻訳：www.traduzca.com

